



株主通信

神奈川中央交通株式会社
第144期 報告書

平成29年4月1日▶平成30年3月31日



取締役会長 三澤 憲一 取締役社長 堀 康紀

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第144期報告書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

神奈中グループ経営理念

お客様の「かけがえのない時間(とき)」と「ゆたかな暮らし」の実現に貢献します。

経営方針

- お客様の視点に立ち、期待に応える価値を提供します。
- 地域の明日を考え、みなさまとともに歩みます。
- 従業員が働くよろこびを実感できる、活気ある企業を目指します。

行動指針

- お客様のために、私たちは
- 一人ひとりが会社の顔としての自覚をもち、今日の仕事をやり遂げます。
 - 相手のことを理解し、協力して互いにとって「よりよい答え」を見つけます。
 - 何事にも信念をもって取り組み、積極的に挑戦します。

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資が緩やかに増加し、個人消費は雇用情勢の着実な改善を背景に持ち直しの動きがみられるなど回復傾向が続きました。一方で、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響などにより先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な営業施策を図ってまいりましたが、当期における売上高は1,137億6千3百万円（前期比1.5%減）となり、一般旅客自動車運送事業における乗合バスの車両代替の増加に伴う減価償却費の増加および燃料単価の上昇に伴う燃料費の増加により、営業利益は64億8千1百万円（前期比4.8%減）、経常利益は64億7千6百万円（前期比3.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は42億3千6百万円（前期比6.5%増）となりました。

当期の期末配当金につきましては、将来への事業投資や経営環境の変化に備え、経営基盤強化に必要な内部留保を充実させるとともに、連結配当性向や連結株主資本配当率等の指標を総合的に勘案し、1株につき17円50銭といたしましたので、あわせてご報告申し上げます。

当社グループを取り巻く事業環境は、本格的な少子高齢化社会を迎え、国内マーケットの縮小が見込まれる中、AIやIoT等のテクノロジーは急速に進展するなど、経験したことのないスピードで社会が変化しています。また、訪日外国人の更なる増加が見込まれていることや、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、社会インフラの整備が急ピッチで進められています。

今回策定しました「神奈中グループ中期経営計画（2018年度～2020年度）」では、前回策定しました「神奈中グループ中期経営計画（2015年度～2017年度）」の基本方針である当社創立100周年（2021年）に向けて、事業基盤を強化すべく、成長の種を蒔き育てることを引き続き実施してまいります。

また、事業環境の変化が著しい今日において、次の100年に向けて更なる成長を遂げるために、「時代の変化に柔軟に対応し、新たな価値の創造に挑戦し続ける」を掲げ、競争環境や業界構造の変化をもたらしているAIやIoT等の先端技術を積極的に取り込み、新たなサービスの提供や生産性の向上に取り組んでまいります。

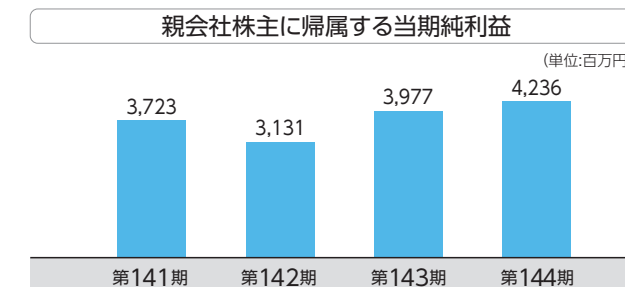
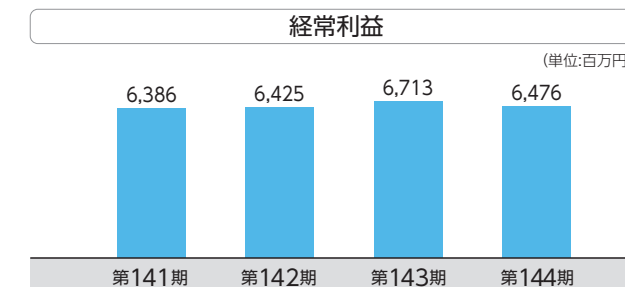
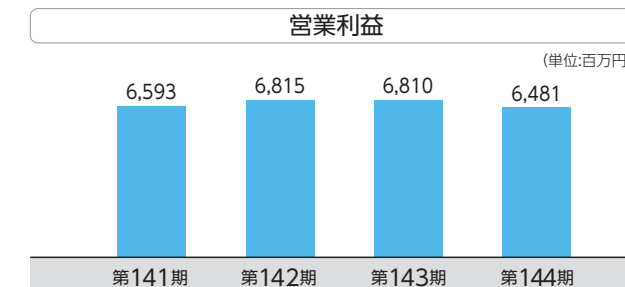
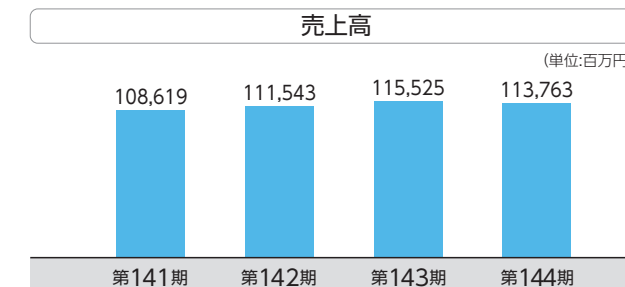
なお、当社グループでは、経営理念の実現と持続的な企業価値の向上を図るため、将来への事業投資や財務の健全性の維持に努めるとともに、業績の動向を踏まえた安定的な配当を実施し株主還元の実現を図ることを資本政策の基本的な方針としております。また、2021年に迎える当社創立100周年に向けて更なる成長を目指し、売上高、EBITDAおよび売上高営業利益率を目標とする経営指標に見直しました。なお、ROEについても引き続き重要な指標として注視し、効率的な経営に努めてまいります。

今後も「神奈中グループ中期経営計画（2018年度～2020年度）」の施策を推進し、経営基盤を一層強化し収益力の向上を図るとともに、リスクマネジメント体制の充実を図ることなどにより企業の社会的責任を果たすことで、社会から信頼される企業グループを確立し、神奈中グループ経営理念である「お客様の『かけがえのない時間(とき)』と『ゆたかな暮らし』の実現」を目指してまいります。株主の皆さまには、引き続きより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

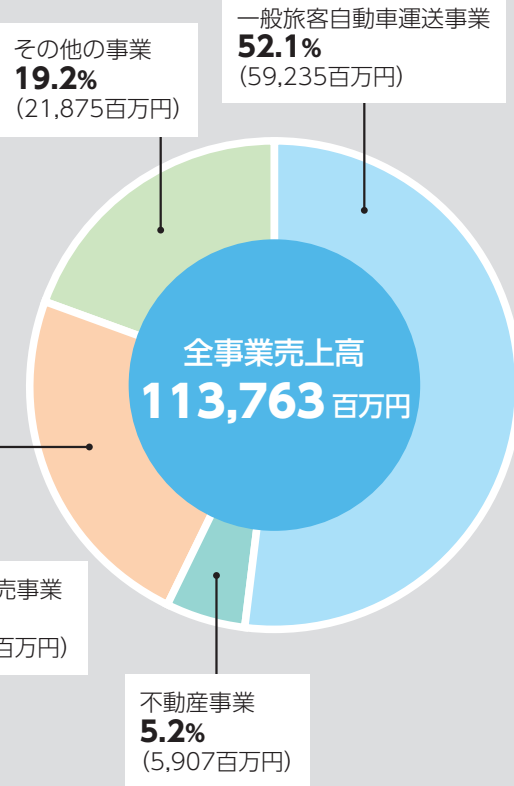
平成30年6月

経営指標	目標値
目標年度	2021年度(創立100周年)
売上高	1,200億円
EBITDA	160億円
売上高営業利益率	6.0%以上

財務ハイライト(連結)



セグメント別売上高構成比



※売上高構成比は外部顧客に対する売上高に基づき算出しております。

一般旅客自動車運送事業

- 当社
- (株) 神奈中タクシーホールディングス
- 相模中央交通(株)
- 神奈中ハイヤー(株)
- 神奈中観光(株) ほか



新型ノンステップバス

一般旅客自動車運送事業

乗合業においては、前期より開始した神奈川中央交通東(株)における川崎市交通局井田営業所の業務受託や、前期に運行を開始した「平塚駅北口～らぼーと湘南平塚循環線」などが通期寄与したことに加え、平成30年3月のイオンモール座間開業に伴い小田急相模原駅および南林間駅からの直行便を運行開始したことなどにより増収となりました。また、お客様がスムーズに乗降しやすいノンステップバスを183両導入するとともに、南町田駅北口ロータリーへの一部路線の乗り入れを開始したほか、「小山田桜台～唐木田駅東～多摩南部地域病院線」など新規路線の実証運行を開始するなど、利便性の向上を図りました。



3月に開業したイオンモール座間への乗入れ開始

不動産事業

- 当社
- 相模中央交通(株)
- 神中興業(株)



新築分譲マンション「プレミスト湘南辻堂」モデルルーム

貸切業においては、神奈中観光(株)にて、旅行会社との契約に伴う稼働車両数の増加により増収となりました。

自動車販売事業

- 神奈川三菱ふそう自動車販売(株)
- 神奈中相模ヤナセ(株)



8月にマイナーチェンジしたメルセデス・ベンツ「Sクラス」

乗用業においては、11月より車椅子でのご利用など乗り降りしやすいユニバーサルデザインの次世代型タクシー「JPN TAXI(ジャパntaxi)」の導入を開始し、利便性向上を図るとともに、8月にはスマートフォンアプリや音声自動受付(IVR)による無線配車サービスを開始するなど顧客獲得に努めましたが、乗務員不足による稼働減が影響し減収となりました。



12月に実証運行を開始した小山田桜台～唐木田駅東～多摩南部地域病院線

その他の事業

- 当社
- (株) 神奈中商事
- (株) 神奈中スポーツデザイン
- (株) 神奈中システムプラン
- (株) グランドホテル神奈中 ほか



中伊豆グリーンクラブ4番ホール

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は594億7千4百万円(前期比0.1%減)、営業利益は26億8千7百万円(前期比12.1%減)となりました。



次世代型タクシー「JPN TAXI(ジャパntaxi)」

不動産事業

分譲業においては、横浜市戸塚区にて伊藤忠都市開発(株)と共同で行った新築分譲マンション「クレヴィア戸塚」を完売しました。また、伊勢原市にて小田急不動産(株)およびセコムホームライフ(株)と共同で行っている「リーフィアレジデンス伊勢原」の販売を進めるとともに、藤沢市羽鳥において大和ハウス工業(株)および(株)長谷工コーポレーションと総戸数914戸の大規模マンション共同事業「プレミス湘南辻堂」の販売を12月より開始しました。しかしながら、従来より販売していた宅地分譲が前期で完売したことにより減収となりました。

賃貸業においては、前期に開業した賃貸施設「スーパーホテル戸塚駅東口」の賃貸収入が通期寄与したことに加え、積極的なテナントの誘致活動に伴い既存施設の稼働率が向上したことにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は59億2千5百万円(前期比3.5%減)となりましたが、前期に「相模原中央ビル」の大規模改修が終了し、修繕費が減少したことなどにより、営業利益は22億3千5百万円(前期比13.8%増)となりました。



大和ハウス工業(株)および(株)長谷工コーポレーションと共同で行っている新築分譲マンション「プレミス湘南辻堂」

自動車販売事業

自動車販売事業においては、神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、大型バス「エアロスター」の販売が順調に推移しましたが、トラックの販売台数が伸び悩みました。また、輸入車販売では神奈中相模ヤナセ(株)にて、前期にモデルチェンジしたメルセデス・ベンツ「Eクラス」などの販売は順調に推移したものの、「Sクラス」「Cクラス」などが不振だったことに加え、中古車の販売台数も減少しました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は307億1千9百万円(前期比1.5%減)となりましたが、商用車販売において新型トラック「スーパープレート」の販売開始により粗利率が改善したことなどにより、営業利益は3億2千3百万円(前期比118.9%増)となりました。



5月より販売開始した新型トラック「スーパープレート」

その他の事業

流通業においては(株)神奈中商事にて、原油高の影響による燃料の販売単価の上昇に加え、取扱量が増加したことにより増収となりました。

資源活業においては(株)アドベルにて、原油や金属など資源価格の上昇に伴いリサイクル品の販売単価が上昇したことに加え、大型商業施設における廃棄物収集運搬業務が通期寄与したことなどにより増収となりました。

飲食・娯楽業においては、新規業態のオムライス店「ラケルイーアス高尾店」を6月に、「ラケル横浜ノースポートモール店」を9月に開店いたしました。また、うどん店「うまげなららぽーと湘南平塚店」をはじめ、前期に開店した4店舗の収入が通期寄与したことにより、増収となりました。

総合ビルメンテナンス業においては横浜ビルシステム(株)にて、公共施設「大和市文化創造拠点シリウス」の指定管理者として受託した施設維持管理業務が通期寄与したことに加え、清掃管理業務の新規受注などにより増収となりました。

商用車架装業においては、新排出ガス規制対応前の駆け込み需要の反動減による自動車メーカーの生産台数の減少などにより、カプラ架装の受注が減少し減収となりました。

ホテル業においては、併設のレストランにおいてランチタイムにサラダbuffetを開始するなど、サービスの向上を図り顧客獲得に努めましたが、訪日外国人団体旅行者をはじめ宿泊客が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は302億9千7百万円(前期比0.3%減)、営業利益は14億9千8百万円(前期比15.1%減)となりました。



(株)アドベルが展開するバス車載型デジタルサイネージ「かなch」



(株)神奈中システムプランが運営している「ラケルイーアス高尾店」



グランドホテル神奈中秦野2F 中国料理「東光苑」

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度	前連結会計年度
		平成30年3月31日現在	平成29年3月31日現在
① 資産の部			
流動資産		22,932	22,461
固定資産		127,212	126,496
有形固定資産		105,265	105,365
無形固定資産		1,175	1,144
投資その他の資産		20,771	19,986
資産合計		150,145	148,957
② 負債の部			
流動負債		42,042	42,166
固定負債		52,336	55,755
負債合計		94,378	97,921
③ 純資産の部			
株主資本		46,165	42,364
その他の包括利益累計額		5,365	4,688
非支配株主持分		4,236	3,983
純資産合計		55,766	51,036
負債純資産合計		150,145	148,957

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度	前連結会計年度
		平成29年4月1日から平成30年3月31日まで	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
売上高		113,763	115,525
売上原価		92,369	94,167
売上総利益		21,394	21,358
販売費及び一般管理費		14,913	14,548
営業利益		6,481	6,810
営業外収益		492	460
営業外費用		496	557
経常利益		6,476	6,713
特別利益		807	566
特別損失		742	1,196
税金等調整前当期純利益		6,542	6,082
法人税、住民税及び事業税		1,997	2,233
法人税等調整額		83	△295
当期純利益		4,461	4,144
非支配株主に帰属する当期純利益		225	167
親会社株主に帰属する当期純利益		4,236	3,977

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度	前連結会計年度
		平成29年4月1日から平成30年3月31日まで	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー		9,970	7,894
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー		△5,979	△7,776
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー		△3,813	57
現金及び現金同等物の増減額		177	175
現金及び現金同等物の期首残高		2,290	2,114
現金及び現金同等物の期末残高		2,468	2,290

① 資産の部

流動資産は、分譲土地建物の取得による商品及び製品の増加などにより、前期末に比べて4億7千万円増加し、229億3千2百万円となりました。
また、固定資産は、投資有価証券の時価評価額が増加したことなどにより、前期末に比べて7億1千6百万円増加し、1,272億1千2百万円となりました。
この結果、当期末の総資産は、前期末に比べて11億8千7百万円増加し、1,501億4千5百万円となりました。

② 負債の部

負債は、借入金の返済が進んだことなどにより、前期末に比べて35億4千2百万円減少し、943億7千8百万円となりました。なお、借入金及び社債残高は、前期末に比べて25億1千8百万円減少し、504億8千万円となりました。

③ 純資産の部

純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて47億3千万円増加し、557億6千6百万円となりました。

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益65億4千2百万円に、減価償却費63億5千5百万円などを加減した結果、99億7千万円の資金収入となりました。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出64億2千1百万円などにより、59億7千9百万円の資金支出となりました。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出71億9千6百万円などにより、38億1千3百万円の資金支出となりました。

連結株主資本等変動計算書の要旨 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,160	693	39,218	△707	42,364	4,794	△72	△33	4,688	3,983	51,036
当期変動額											
剰余金の配当			△431		△431						△431
親会社株主に帰属する当期純利益			4,236		4,236						4,236
自己株式の取得				△3	△3						△3
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						494	113	69	676	252	929
当期変動額合計	—	—	3,804	△3	3,801	494	113	69	676	252	4,730
当期末残高	3,160	693	43,022	△710	46,165	5,288	40	36	5,365	4,236	55,766

株主優待乗車券・株主優待乗車証

株主優待乗車券(回数券式)および株主優待乗車証(定期券式)は、毎年3月31日および9月30日最終の株主名簿に記録された100株以上保有の株主の皆さまに対して、その保有株式数に応じて発行いたします。(それぞれ有効期間6ヶ月間、5月下旬および11月下旬発送。)

なお、株主優待乗車証は持参人御一名様にご利用になれます。

株主優待乗車券および株主優待乗車証発行基準

保有株式数	種別および発行枚数(6ヶ月につき)		
	株主優待乗車券 (回数券式)		株主優待乗車証 (定期券式)
100株以上 200株未満	5枚	—	—
200株以上 400株未満	10枚	—	—
400株以上 600株未満	15枚	—	—
600株以上 800株未満	20枚	3年以上継続して 600株以上保有の場合、 左の枚数に5枚追加(※2)	—
800株以上 1,000株未満	25枚		—
1,000株以上 1,400株未満	30枚		—
1,400株以上 2,000株未満	35枚		—
2,000株以上 3,000株未満	40枚		—
3,000株以上 4,000株未満	50枚	3年以上継続して 2,000株以上保有の場合、 左の枚数に10枚追加(※2)	—
4,000株以上 5,000株未満	70枚		—
5,000株以上 8,000株未満	100枚 (※1)		全路線1枚 (※1)
8,000株以上 20,000株未満	50枚		全路線1枚
20,000株以上 100,000株未満	50枚		全路線2枚
100,000株以上 200,000株未満	50枚		全路線3枚
200,000株以上	50枚	全路線5枚	

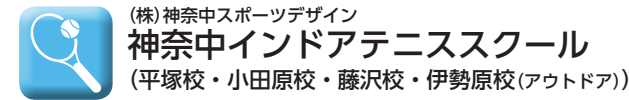
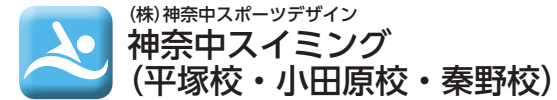
※1 5,000株以上8,000株未満保有の株主さまにつきましては、株主優待乗車券または株主優待乗車証のいずれかの選択となります。

※2 株主優待乗車券の追加発行の対象となるのは、過去3年間全ての基準日において規定株数以上を継続して保有し、株主番号が継続して同一の株主さまです。

グループ会社割引券等

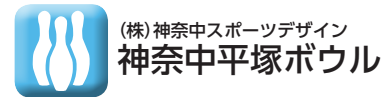
当社のグループ会社の割引券等は、毎年3月31日最終の株主名簿に記録された100株以上保有の株主の皆さまに対して発行いたします。(有効期間1年間、5月下旬発送。)

※10月1日をもって、(株)クリエイイトL&Sは(株)神奈中スポーツデザインに社名変更しました。



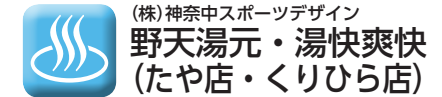
共通施設体験券2枚および入会初回月会費50%割引券2枚

- スイミング、フィットネス、インドアテニス・ゴルフでご利用になれます。
- 入会初回月会費50%割引券は、3ヶ月以上の在籍が必要となります。

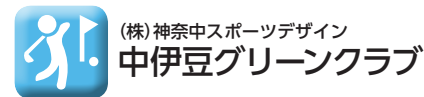


1ゲーム無料券 10枚

- 2ゲーム以上プレーされた場合にご利用になれます。



入浴(入館)料100円割引券 10枚



プレー代等の総額から1,000円割引券 6枚



宿泊、飲食、ケーキ等の10%割引券 6枚



直営店での10%割引券 10枚

【直営店】
らーめん花樂(全14店)
ドトールコーヒーショップ(相模原駅前店・秦野北口店・大和鶴間イトーヨーカドー店・上野浅草通り店・上野中央通り店・立場イトーヨーカドー店・東日本橋店・海老名ビナウォーク店・みなとみらいグランモール公園店・イオン茅ヶ崎中央店)
サーティワンアイスクリーム(平塚ロードサイド店・OSC湘南シティ店・立場イトーヨーカドー店・ららぽーと湘南平塚店)
ミスタードーナツ(橋本駅前ショップ・上溝ショップ・アリオ橋本ショップ)
はなまるうどん(横浜港南中央店・イトーヨーカドー立場店・ミスターマックス湘南藤沢店)
ラケル(イースタス高尾店・横浜ノースポートモール店)
うまげな(ららぽーと湘南平塚店)
やきとり家すみれ(溝の口店)

ご注意 ●(株)神奈中システムプランの割引券は上記直営店のみでご利用になれます。
●ご利用可能店舗および施設は平成30年6月28日現在のものです。

「神奈中グループ中期経営計画(2018年度～2020年度)」スタート！

「神奈中グループ中期経営計画(2018年度～2020年度)」では、以下の基本方針およびセグメントごとの主な具体的施策に取り組むことで、同計画の目標達成を目指してまいります。

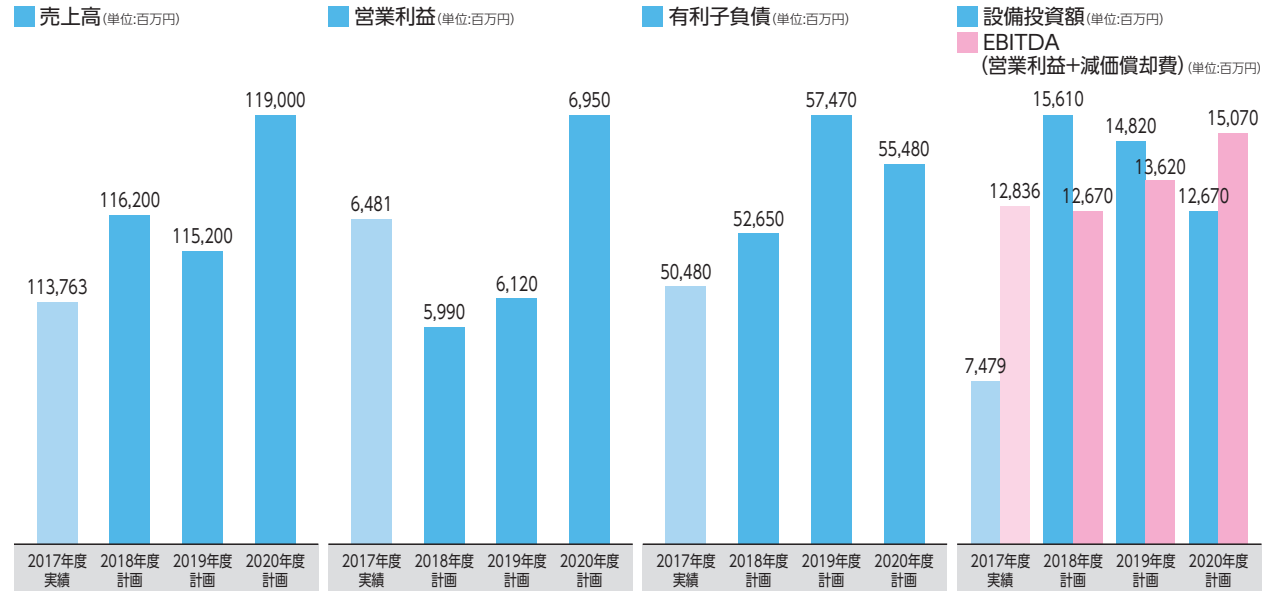
基本方針

今回策定しました中期経営計画(2018年度～2020年度)では、前回策定しました中期経営計画(2015年度～2017年度)の基本方針である当社創立100周年(2021年)に向けて、事業基盤を強化すべく、成長の種を蒔き育てることを引き続き実施してまいります。

また、事業環境の変化が著しい今日において、次の100年に向けて更なる成長を遂げるために、「時代の変化に柔軟に

対応し、新たな価値の創造に挑戦し続ける」を掲げ、競争環境や業界構造の変化をもたらしているAIやIoT等の先端技術を積極的に取り込み、新たなサービスの提供や生産性の向上に取り組んでまいります。そして、経営理念である「お客様の『かけがえない時間(とき)』と『ゆたかな暮らし』の実現」を目指してまいります。

連結経営数値目標



主な具体的施策

一般旅客自動車運送事業

①お客様の快適な移動の実現



大量輸送ニーズがある路線への連節バス導入 ノンステップバスの積極的な導入

②AI・IoTなどの最新技術の活用

③新たなお客様の開拓および経営の効率化の推進

自動車販売事業

①支店の移転・規模拡大により、販売ネットワークの最適化を実現



2016年9月に完成した神奈川三菱ふそう自動車販売(株)戸塚支店整備工場 メルセデス・ベンツ相模原ショールーム

不動産事業

①社有地の有効活用



2016年7月に開業した賃貸施設「スーパーホテル戸塚駅東口」

②戸建分譲の実施および新たなマンション共同事業への参画



小田急不動産(株)およびセコムホームライフ(株)と共同で行っている新築分譲マンション「リーフィアレジデンス伊勢原」

その他の事業

①スイミングスクールの新規開設



2017年8月にリニューアルした神奈中スイミングスクール秦野校

②飲食・娯楽業における新規出店の推進



2017年9月にオープンした「ラケル横浜ノースポートモール店」

TOPICS 1

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会特別仕様ナンバープレート」を導入しました

神奈中グループでは、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会特別仕様ナンバープレート」を羽田・成田の両国際空港へ乗入れる空港リムジンバスや、大会の開催地である東京都内、横浜市の中心部を運行する乗合バスなどの一部車両に導入しました。

これは、同大会の開催を記念して国土交通省から交付されている図柄入りナンバープレートで、大会開催に必要な交通サービスの改善（バス・タクシーのバリアフリー化等）に充てるための寄付も兼ねています。デザインは、様々な人々の個性（色）を尊重した未来の社会への希望を集約する光の表現としてイメージし、その様を多彩色のグラフィックで表現されています。

神奈中グループでは、国内外の旅行者等に対して大会の開催についてPRし、大会開催機運の盛り上げに貢献します。



TOPICS 2

まわたりばし 馬渡橋が開通しました

神奈川県厚木土木事務所が2013年から進めていた、県道54号（相模原愛川）の愛川町半原地区と田代地区を結ぶ馬渡橋の架け替え工事が完了し、2018年2月17日に開通しました。



旧馬渡橋(2013年)



新しい馬渡橋

旧馬渡橋は、一級河川中津川に架かる延長約48mのトラス橋であり、1926年の架橋から約90年が経過し、通行する車の荷重制限や狭隘な道幅により車のすれ違いが困難な状況でした。

新しい橋への架け替えにより、総重量20tまでの大型車両のすれ違いが可能になるとともに、歩道も併設されました。

この橋を使用する路線を持つ当社においても、ますますの交通安全の確保および交通利便性の向上を期待しています。

馬渡橋を通る路線

厚02 厚木バスセンター、本厚木駅～田代～半原
厚59 厚木バスセンター、本厚木駅～中荻原・三増～半原
田01 田名バスターミナル～箕輪辻～半原 他

沿線散策・神奈川県立あいかわ公園

神奈川県立あいかわ公園は、宮ヶ瀬ダム直下の河岸段丘状に広がる公園です。

自然に恵まれた園内には、春に約44,000本のツツジが咲き誇る「花の斜面」や、空気の澄んでいる日には横浜のランドマークタワーまでも望める「風の丘」などがあり、四季折々の景色や自然を楽しむことができます。その他にも、大型遊具を揃えた「冒険の森」や空気でふくらませたトランポリン「子供広場・フワフワドーム」、夏に水遊びのできる「ジャブジャブ池」などがあり子供も1日中遊べます。

また、宮ヶ瀬ダム堤体下では、4月から11月の間、ダムのダイナミックな人工瀑布を体感できる観光放流を間近で見ることができます。

【観光放流実施日時】
4月～11月の毎週水曜日、
毎月第2日曜日、第2、4金曜日
各日1回目11時、2回目14時(約6分)
その他不定期日
※天候により変更になる場合があります。(大人200円、小学生100円)

【ロードトレイン「愛ちゃん号」】
パークセンター前から
宮ヶ瀬ダムを結びます。
(大人200円、小学生100円)

神奈川県立あいかわ公園へのお出かけは

●小田急線本厚木駅（厚木バスセンター）1番乗り場より、厚01系統半原行
【所要時間】約40分
【現金運賃】大人570円 小人290円
【IC運賃】大人566円 小人283円
【「愛川大橋」バス停下車 徒歩約15分

バスに関するお問い合わせ
神奈川中央交通株式会社
厚木営業所
TEL 046-241-2626

【神奈川県立あいかわ公園】

TEL 046-281-3646
<http://www.aikawa-park.jp/>

● 会社の概況

会社概要

(平成30年3月31日現在)

商号 神奈川中央交通株式会社
本社 〒254-0811 神奈川県平塚市八重咲町6番18号
設立 大正10年6月5日
資本金 31億6,000万円
従業員数 2,496名
事業内容 一般旅客自動車運送事業、不動産事業、
ホテル業、飲食・娯楽業

役員

(平成30年6月28日現在)

取締役会長	三澤 憲一	取締役	武 静雄
取締役社長	堀 康紀	取締役	住吉 利夫
専務取締役	石井 豊	取締役	今井 雅之
専務取締役	金子 茂浩	取締役	山木 利満
常務取締役	大木 芳幸	取締役	星野 晃司
		取締役	南雲 忠信
常勤監査役	石川 建作	監査役	石井 健児
常勤監査役	今坂 正	監査役	松村 俊夫

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当の基準日 (1) 中間配当 毎年9月30日
(2) 期末配当 毎年3月31日
定時株主総会の基準日 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 〒100-8233
特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
電話お問い合わせ先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法 電子公告といたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
<電子公告掲載URL>
<http://www.kanachu.co.jp/kanachu/ir/stock/notification.html>

神奈川中央交通株式会社

〒254-0811 神奈川県平塚市八重咲町6番18号
電話 0463-22-8800
ホームページアドレス <http://www.kanachu.co.jp/>
表紙写真 3月より運行を開始した小田急相模原駅と
イオンモール座間を結ぶ直行使

● 株式の状況

株式の状況

(平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数 5,040万株
発行済株式総数 1,260万株
株主数 4,700名

大株主 (平成30年3月31日現在)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
小田急電鉄株式会社	5,572	45.19
株式会社横浜銀行	612	4.97
横浜ゴム株式会社	240	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行退職給付信託口)	200	1.62
三井住友信託銀行株式会社	183	1.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	127	1.03
朝日生命保険相互会社	120	0.97
第一生命保険株式会社	120	0.97
明治安田生命保険相互会社	101	0.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	100	0.82

(注) 1. 当社は自己株式267千株を所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。

IRサイトの
ご案内 <http://www.kanachu.co.jp/>
神奈川中央交通 検索

① 当社ホームページのトップ画面より、右上の「企業に関する情報」をクリックしてください。

② 「投資家情報」をクリックしてください。

IRサイト

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを
使用して印刷しています。